大きな愛で人にやさしい

2026年　10月
ナンバー70号
帯広市議会議員
大　林　愛　慶
おおばやし　やすよし
後援会ニュース

第４回帯広市議会定例会が、９月３日から３０日までの期間で開催され、２０２６年度の補正予算（２４億３２００万円）、２０２５年度決算（１８８３億３３００万円）を審議し、可決・承認いたしました。陳情で提出されていました「非核三原則の堅持」を求める「国への意見書」を起立による採決が行われ、賛成２０議員、反対８議員の結果、可決しました。



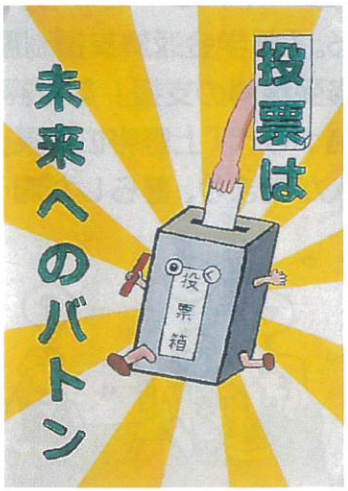
「非核三原則の堅持を求める」意見書 第４回定例会で可決

「戦争させない・９条こわすな！総がかり行動実行委員会」から提出された「上記」陳情を、今回の定例議会で帯広市議会が国に対し「非核三原則の堅持」を求める意見書を採決。（賛成２０，反対８）
帯広市は「核兵器廃絶平和都市宣言」を１９９１年に発表しています。現政権は「安全保障関連３文書」の改定を進めており、その中で「非核三原則」の改変の検討も予断を許さない状況です。
世界で初めて戦争による被爆国であり、非核三原則を守ることは、国民・市民の願いです。しかし「自国第一主義」や「大国の覇権争い」が続いている中、紛争や戦争させない、核兵器を使用させないことが重要です。そのためにも「核兵器を持たず・作らず・持ち込ませず」を堅持し、平和外交を進めていく必要があると考えます。

2025年度（R7）帯広市 各会計決算

会　計　名	予　算　額
一般会計	968億2,000万円
国民健康保険会計	151億　900万円
後期高齢者医療会計	31億9,900万円
介護保険会計	171億3,800万円
中島霊園事業会計	6,300万円
ばんえい競馬会計	559億3,500万円
駐車場事業会計	6,600万円
総　合　計	1,883億3,300万円

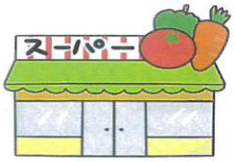




統一自治体選挙（２０２７年４月実施予定）

１０月７日、「大林やすよし」後援会総会が開催され、来年４月に行われる「帯広市議会議員選挙」５期目への出馬の要請をいただきました。
皆さまの期待を重く受け止め、挑戦させていただくことといたしました。
生きがいを持って暮らせる、安全・安心な地域づくりを目指し、引き続き活動を強化していくため頑張ります。

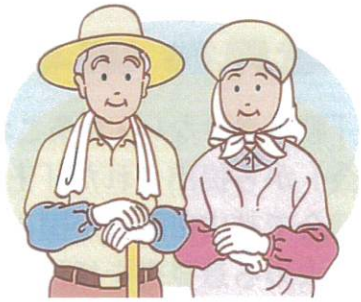
９月議会　一般質問　要旨





立地適正化計画は地域の特色を活かすべき

立地適正化計画（素案）が示され、今後、原案が作成されパブリックコメントを実施し成案が示されます。
私は、「郊外の商店街」「コミセン」「郵便局」は地域の核の役割を果たしてきました。生活拠点として可能性があると考えています。
また、大空地区は「居住誘導区域候補」に指定されず、「居住地等として保全するエリア」に指定されています。大空自治会が中心となり「大空地域振興計画」も取組まれていますし、第２次都市計画マスタープランでは、「まちのツボ」として、大空地区の地区別構想も２０２３年５月に策定され、現在は「義務教育学校」の開校、「市営住宅」の建て替え、小学校跡地への商業施設の建設や、住宅地の造成が進んでいます。「既存施設を最大限活用」していく必要性を訴えました。
市側は「将来の人口密度が１ヘクタール＝４０人未満」と予測されており、今後、地域の活性化の取組みにより状況が変化した場合は見直しの検討を行うとの答弁がありました。



食料基地・十勝帯広の役割

日本の食料自給率が３７％と１ポイント低下しました。十勝の食料自給率は１３００％と大きな役割があります。経営耕地面積は「農家１戸あたり約３７ha」。これ以上の規模拡大を進めるには労働力の確保や、新たな設備投資が必要もあり、難しい状況でもあります。スマート農場の普及率は「７６％」となっていますが、小中規模農家では費用対効果の検証も必要です。９月１０日に「十勝ＡＩ農業特区」の指定方針が了承されました。現場実装により「省力化・効率化」「ＡＩ農業の拠点」につながるよう準備の強化を要請しました。



2025年度決算　討論要旨

「フードバレーとかち」は堅調に食の魅力・地域の発展につながっている。「奨学金返済支援制度」設立や「エアコンの設置」「介護人材への研修受講料の支援」など評価するものである。
第１０代「上野帯広市長」が誕生し、市政執行方針では「仕事が生まれ、人が集まり、暮らしが潤う環境を即し、地域経済の活性化や生活機能の確保を図る」と表明。そのためにも「市民生活の不安を丁寧に捉え」「希望が持てる、夢がかなえられる仕掛けづくり」が重要である。「人と人のつながりで、支えあえる地域づくり」を進めることにより、豊かさを感じ活力ある地域づくりの基盤であると考える。
今後の政策をしっかり注視し議論を進めていく。



